

北ア・穂高ハイキング

【報告者】T寄

【日時】2017年7月24日～8月1日

【7月24日】曇りのち雨

博多～松本～15:30 上高地 16:15 → 19:30 槍沢ロッヂ 45 → 20:10 ババ平
JRを乗り継いで上高地へ。バスターミナル2Fの上高地食堂で山賊カレーを食し、身支度を整えて出発する。徳沢過ぎから、シトシトと雨が降り出し、傘をさす。槍沢ロッヂでテント受付時、遅い時間だったので注意される。ゴメンナサイ。ババ平にて小雨のなか設営。6張のテントが有った。星が見えた時もあり安心したが、11時ごろから土砂降りとなり、シェルターの中は洪水状態で、全てが濡れてしまった。自宅を出発するまで、シェルターにするかツェルトにするかを悩んでいたが、300g程軽く・設営が簡単なシェルターを選択した。雨にならぬことを期待していたが、最悪の結果となった。

【7月25日】雨のち曇り

ババ平 3:15 → 6:30 槍ヶ岳山荘 40 → 槍ヶ岳 6:55 → 山荘 7:05 → 10:45 横尾
11:05 → 13:50 小梨平

眠られぬ一夜を明かし、朝食のカロリーメイトを水で流し込み、小雨の中を槍ヶ岳へ向けて出発する。5カ所に雪渓が残っていたが、暗くてもトレースがあり、トレランシューズでも問題はなかった。殺生ヒュッテ分岐からの急登はやはりシンドイ。槍ヶ岳山荘で小休止後、槍の穂先を往復する。強い風雨の中であったので、山頂の祠に手を合わせただけでそそくさと下る。待ち時間もなく早く往復できた。槍の東側は風が遮られていたが、西鎌尾根は強風である。西鎌尾根を下って笠ヶ岳へ向かう計画であったが、ストックシェルターと濡れた寝袋及び穴滝上部の渡渉等を考えたら、行く気が失せてしまった。この風雨程度では問題なく笠ヶ岳までは行くことが出来るであろうが、笠ヶ岳山荘に泊ってしまいそうな気がする。山小屋は緊急時以外には使用したくはない。今回は装備選択及び天候判断のミスであり、反省して上高地へ下ることとする。最後の長い雪渓ではチェーンスパイクを履き駆け下る、最高の気分で鬱憤が晴れる。槍沢ロッヂで雨具を脱ぎ、傘を差して横尾へ。明神の穂高神社奥宮の日本アルプス遭難者慰霊碑に手を合わせて、まだ元気に山を歩いていることを報告する。上高地郵便局で小包を受け取り、小梨平に懐かしのゴアライズテントを張る。ウエザーブランケットとツェルト用ポールで出入口にタープ風に屋根を設けたので、雨でも

快適である。

【7月26日】 曇り時々雨

沈殿。アルペンホテルで朝湯をし、ビジターセンターで写真やビデオを見て一日を過ごす。

【7月27日】 曇り時々雨

沈殿。今朝もアルペンホテルのお湯に浸かり、岳沢湿原や大正池を散策する。上高地温泉ホテルで山岳画の展示会を開催していたが、今回は寄らなかった。2400~2500m から上のガスが取れない。こちらに来てから、お日様と穂高の稜線を見たことがない。

【7月28日】 雨のち曇り

小梨平 1:00 → 3:15 西穂山荘 25 → 4:30 独標 → 5:25 西穂高岳 40 → 7:15 天狗の
コル 30 → ジャンダルム 8:35 → 9:10 奥穂高岳 30 → 10:40 紀美子平 11:00 →
12:15 岳沢小屋 30 → 14:00 小梨平

霧雨の中、P社のフーディニフルとM社のウインドパンツを履き、ヘッドランプを点けてテントを出す。熊さんが出ませんようにと河童橋を過ぎた辺りから熊鈴を鳴らす。西穂山荘までは慣れた道であり、スピードハイク用の200gザックなので汗もかかず、計画よりもだいぶ早く着いた。小屋前のベンチでカロリーメイトを食べていたら雨が降り出し、雨具を着る。とりあえず西穂高岳まで行って判断することとして、先へ進む。独標・ピラミッドピークでは証拠写真の山頂標識を写す。西穂高岳では雨も小降りになったので、天狗のコルから下ることも考えて先へ進む。天狗岳で雨は止み、霧だけとなる。天狗のコルで小休止し、行動食を頬張る。ジャン手前のコブの頭で老人四人組(山ではいつまでも青年のつもりでいるが、私も正真正銘の老人であるが…)と行き違う。余りにも不慣れの様子で危なっかしいので、山荘を何時に出たのか聞いたら、『4時に出た』とのことであった。時間がかかり過ぎ…。『岩が滑り、浮石が多いので注意するように！』と言って別れたが、無事に明るいうちに西穂山荘に辿り着けるだろうか、と心配した。ジャンの山頂はスルーし、ガスって無人の奥穂高岳に無事到着、岳沢側の窪地に腰を下ろして休憩しカロリーメイトとベイクショコラを口にする。吊尾根の最低コル手前に雷鳥の親子が居た。前穂高岳もスルーし、紀美子平と岳沢小屋で長々と休憩して小梨平へ下りた。重太郎新道の上部が整備され歩き易くなっていた。今回は、濡れた岩が滑るので、岩稜での歩き方の基本の重要性を再認識した。

【7月29日】 曇り

沈殿。今朝もアルペンホテルの風呂を長々と独り占めする。明神池へ散歩に行く。計画ではテントを徳澤へ移動することにしていたが、小梨平に延泊することとした。

【7月30日】 曇り時々雨

小梨平 2:35 → 横尾 4:15 → 6:05 涸沢小屋 15 → 7:25 穂高岳山荘 35 → 涸沢岳 7:55 → 9:20 北穂高岳 35 → 10:55 涸沢小屋 11:05 → 12:40 横尾 50 → 14:35 小梨平

本日は、行程を短縮して(切戸、天狗池を割愛)、小梨平から往復の穂高周回とし、霧の中を出発する。長堀沢手前でパックのチェストベルトの留具が壊れる。この時、カメラ・携帯・お金等の貴重品を入れたウエストバッグを忘れたのに気付く。取りに帰る気もせず、注意・集中しろということだろうと自分に言い聞かせ、先へ進む。

横尾大橋を渡ったら雨となり雨具を着る。屏風岩はいつ見ても懐かしい、最後に登攀して40年弱過ぎているが、ルートを目で追ってしまう。残雪が多く、涸沢のテン場の半分以上は雪の下である。涸沢小屋でトイレを借り、ザイテンへ。もう既に結構な人が歩いている。1時間ほど早く出た方が良かったのかも。ハシゴ手前で雨は上がるが眺望なし。最後は雪の階段をたどって穂高岳山荘へ。山荘へ入って帽子を脱いだ途端にヘッドンが落ちてはじけ飛んだ。涸沢小屋ではずして収納しておけば良かったものの、ヘッドンを帽子に着けていたのをすっかり忘れてしまっていた。ウツカリが今朝から2つ目である。滝谷上の歩行でウツカリは命取りになるので、雨具のチャックと気を引き締めて山荘を出る。涸沢岳のクサリ場を下りきった所で大きなザックの学生さんが休憩していた。某大学の6年生で山岳部員だそうである。朝3時に岳沢を出たが、吊尾根では雨に難渋したとのこと。穂高はあまり詳しくない様子なので、私が先行する。滝谷を登攀して南稜のテン場への帰路に通い慣れた所であり、ガスで視界が無くても迷うことはないし、懐かしい。後ろの彼は大きなザックにもかかわらず、しっかりした足取りでついて来る。岩稜を歩き慣れた人に久方ぶりに会えて嬉しい。北穂高岳山頂で槍へ行く彼と握手して別れる。元気をもらった気がする。

南稜のハシゴを下り、クサリ場で8人グループを待つ。これまた危なっかしい。ゴルジュ辺りで、登って来るクラブツーリズムの2パーティー(20名弱)に道を譲る。

涸沢・横尾間は登ってくる人たちが多く、道を譲っていたら、時間がかかった。中学生・高校生のグループも数組あった。引率の先生方はご苦労さんだと思う。横尾で一息入れて、小梨平へ。明日は奥又白池往復の計画であったがとりやめて、今日で今山行は終了とする。

【7月31日】 曇り

今朝もアルペンホテルのお湯に長々と浸かり、昼前までラウンジでお茶をした。
今山行は、ファストパックやスピードハイクを志向して、また穂高の総決算として計画を立てた。(ここ数年は、若い日々を過ごした、穂高に拘った山行を行ってきた。バランスと瞬発力を要する岩稜歩きはそろそろ限界かと判断しているからである。)
早出早着を心掛け、休養日も設けたので、体力的に疲れは感じなかった。残念ながら天気には恵まれなかったが、非常に楽しかった。
しかし、満足するには至らなかった。やはり私はロングトレイルに惹かれる。ピークハンティングへの欲心とワンデリングに対する限りない憧憬とが、私の心の中に巣くっていて、いつまでも枯れないし離れない。
来夏から原点回帰、テント泊での北アルプスのロングトレイルに再チャレンジすることとする。
写真は山頂の数枚を撮ったが、悪天候のため、此れという写真は無かった。

【8月1日】 曇り

上高地 11:30 ~13:21 松本

早朝からロープを張って物干しを行い、昼前の便で松本へ。
松本では2泊して、好天の下、美術館では田村一男・滝川太郎、博物館では武井真徴、民芸館等では松本家具等を中心に巡った。
武井真徴の『夏ハ来ヌ 穂高ハ如何 槍如何 心ニカゝル 山ノ此頃』 『青空モ 槍モ穂高モ 見エ初メヌ 今日ノ幸ヲバ 勇ミテ進ム』には、その通りその通りと共感した。



今山行では、雨が降っていなくても2400~500mから上のガスが取れた日が無かった。